

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	①正殿等の早期復元と復元過程の公開
			施策の小項目名	○復元・修復に携わる人材の確保・育成及び県産資材の利活用
主な取組	首里城赤瓦についての調査研究		対応する成果指標	沖縄県国営沖縄記念公園（首里城地区）の供用面積
施策の方向	・国及び首里城復元に関係する技術者・関係機関との連携の下、復元・修復に携わる人材の確保と育成を推進するとともに、復元に必要とされる木材や赤瓦等の県産資材の調査・研究を進めるなど、県産資材の利活用に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
首里城復元に必要とされる赤瓦等の県産資材の調査研究および技術支援を進め、県産資材の利活用に取り組む。	県	首里城赤瓦の調査研究及び技術支援		
		支援件数（累計）		
		5件	3件（8件）	3件（11件）
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課		【 098-866-2337 】	関連URL —

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)				
予算事業名		首里城復興基金事業			予算事業名		工業研究費（単独）		
主な財源		実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額			R6年度		
県単等		直接実施	14,498	0			主な財源	実施方法	当初予算額
							県単等	直接実施	3,649
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画				
評価機器の購入を検討していたが、納期が10ヵ月を越えていたため、購入できなかった。					依頼試験により、首里城瓦を品質評価した。また、「首里城 磚瓦に関する研究」を実施する。				
予算事業名		工業研究費（単独）			予算事業名				
主な財源		実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額			R6年度		
県単等		直接実施	3,099	2,964			主な財源	実施方法	当初予算額
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画				
首里城瓦の製作における課題の解決に向け技術的に支援した。									

活動指標名	支援件数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	順調	首里城瓦の試作時の立会、首里城瓦製造時の各 工程の立ち会いを11回実施、助言した。
	-件	7件	11件	3件（8件）	100.0%		

様式 1 （主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
首里城瓦を製造する赤瓦事業協同組合と密接に連携し、製造時の課題解決を図ることができた。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
事業を担当する者を複数配置し、技術継承を図る組織体制にする。	増員配置がないため完全な複数配置はできなかったが、班長および副担当者がサポートをしたことで首里城瓦の研究開発を終了することが出来た。

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	現在のところ、事業は順調に進んでいるが、複数の担当者で実施していないので、人事異動があると技術の継承が難しい。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
① 執行体制の改善	事業を担当する者を複数配置し、技術継承を図る組織体制にする。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	④首里城に関連する伝統技術の活用と継承
			施策の小項目名	○漆芸や木工等の技術者育成
主な取組	伝統工芸技術者（漆芸・木工）の育成		対応する成果指標	工芸技術研修（漆芸・木工）累計修了者数
施策の方向	・国との連携の下、県内の漆芸や木工等の技術者を活用した首里城の復元工事を進めるとともに、復元後の維持管理・修繕にも活用されるよう技術者の育成に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
伝統技術の活用と継承を図るため、漆芸・木工の若手工芸技術者に対して技術研修を実施した。	県	工芸振興センターにおける基礎的・専門的な技術研修		
		工芸技術研修(漆芸・木工)実施回数(累計)		
		漆芸1回、木工1回	漆芸1回、木工1回(漆芸2回、木工2回)	漆芸1回、木工1回(漆芸3回、木工3回)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課		【 098-866-2337 】	関連URL http://www.oki-kougeicenter.info

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)				
予算事業名		高度工芸技術者養成事業			予算事業名		高度工芸技術者養成事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
県単等	委託	22, 537	26, 691		県単等	委託	30, 567	
令和5年度活動内容				令和6年度活動計画				
令和5年4月からの1年を通して、漆芸4名、木工4名の計8名に研修を実施した。				令和6年4月からの1年を通して、漆芸4名、木工5名の計9名に研修を実施する。				

活動指標名	工芸技術研修（漆芸・木工）実施回数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	漆芸1回	漆芸1回	漆芸1回	漆芸 1 回	100.0%	順調	
活動指標名	工芸技術研修（漆芸・木工）実施回数（累計）		R5年度				
実績値	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	木工1回	木工1回	木工1回	木工 1 回	100.0%		

おきなわ工芸の杜の貸し工房や共同工房を活用して、漆芸、木工の人材育成研修を行う。

おきなわ工芸の杜の貸し工房や共同工房を活用して、漆芸、木工の人材育成研修を行う。

様式 1 （主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
漆芸 4 名、木工 4 名の計 8 名に研修を実施し、8 名全員が終了した。目標値を達成できたため「順調」と判定した。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○全庁的な「首里城復元における技術継承・人材育成部会」を通して、研修生の首里城現場実習の機会増等、研修内容の充実を図った。	首里城壁面を想定したカリキュラムを新設し、塗装現場での見学・実習で内容の充実を図ることができた。

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	新設したカリキュラムを円滑に進めるため、首里城施工技術者との連携を行う。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	首里城施工技術者と首里城壁面を想定したカリキュラムの具体的な内容や進め方について調整を行う。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	⑤首里城を中心とした琉球文化のルネサンス
			施策の小項目名	○文化資源を活用した新たなビジネスモデルの創出等
主な取組	おきなわ工芸の杜の活用		対応する成果指標	伝統工芸・芸能を体験した個人旅行者の割合
施策の方向	・異分野・異業種間の連携する仕組みを構築し、多様性・独自性を持つ本県の文化資源を活用した新たなビジネスモデルの創出やおきなわ工芸の杜を活用した商品開発、マーケティング、ブランド力向上等を推進し、沖縄の伝統工芸の魅力や価値向上に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
おきなわ工芸の杜を活用し、消費者と作り手との交流を広げ、伝統工芸の啓発普及と消費拡大を促進するため、貸し工房、共同工房、展示室、セミナー開催等、利活用の推進を図る。	県,指定管理者	おきなわ工芸の杜における貸し工房、共同工房、展示室、セミナー等の活用		
		施設の総利用者数(累計)		
		36,000人	36,000人(72,000人)	36,000人(108,000人)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課		【 098-866-2337 】	関連URL
				—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)			
予算事業名		おきなわ工芸の杜指定管理費		予算事業名		おきなわ工芸の杜指定管理費	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額	R6年度			
				主な財源	実施方法	当初予算額	
県単等	委託	81,369	74,873	県単等	委託	69,257	
令和5年度活動内容				令和6年度活動計画			
セミナーやワークショップ等にて工房運営や販路開拓の支援を行った。また、施設内の展示管理を行い、沖縄空手会館との連携等についても検討を進めた。				伝統工芸品の展示やHP及びSNS等での情報発信、セミナーやワークショップの実施のほか、施設入居者の段階に応じた事業支援等を行う。			

活動指標名		施設の総利用者数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	-人	33,296人	65,671人	36,000人（72,000人）	100.0%	順調	セミナー、ワークショップを4回、異業種等との交流会を2回開催した。 また、入居者への事業支援、相談対応やイベント情報の発信、マスコミ取材対応を行い、自主事業イベントについては2回開催した。	
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果								
「施設の総利用者数」の目標値36,000人に対し、65,671人と目標値を達成し、達成割合が100%であることから順調と判断した。 各種イベントの実施やセミナー、ワークショップを開催することで施設の認知度を高め、開館初年度である令和4年度を上回る来館者の集客することができた。								
(2) これまでの改善案の反映状況								
令和5年度の取組改善案					反映状況			
〇SNSにおけるイベント情報の投稿をはじめとした情報発信に加え、近隣施設の空手会館や小学校等と連携を図り、広報を強化する。					〇SNSにおいてリアルタイムでの情報発信を強化したことでフォロワーが増加し、施設認知度の向上や来館者数の増に寄与した。 〇空手会館とは毎月定例会議を実施することで、イベント情報や施設管理の事例を共有し、互いのイベント時に駐車場を共用するなど連携した。 〇また、近隣の小学校等とは施設見学対応や給食用漆器の利用において連携を図り、施設及び工芸品の認知度向上に寄与した。			

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他（改善余地の検証等）	供用開始後2年が経過したが、いまだ近隣住民や工芸従事者でも当該施設を知らない人は多いため、イベントの周知に加え、施設の取組や実施事業についても広報を強化する必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	SNSにおけるイベント情報の投稿をはじめとした情報発信に加え、近隣施設の空手会館や小学校等と連携を図り、広報を強化する。